

徳島阿波踊りに参加して

中西 道雄

いきさつ

本年8月、(社)徳島ニュービジネス協議会(TNBC)の招待で有名な徳島阿波踊りにSNEEDを代表して参加した。TNBCとは本年6月2日に開催したSNEEDの会に杉野課長をお招きしたことがきっかけで交流が始まった。当初TNBCからはSNEEDの石田社長、秋山名誉会長はじめ数名に来てほしいとの招待があったが、皆さん遠慮され7月初旬にたまたまオーストラリアに長期滞在していた私が状況を把握しないで“出席する”とメール回答したまま放置した結果、SNEEDを代表して徳島に出向く羽目になった。

TNBC

8月14日朝一番の飛行機で徳島空港に家内と一緒に下り立った。TNBCからは佐藤次長がわざわざ出迎えてくださり、佐藤次長の車の運転でTNBC主催の徳島グランヴィリオホテルの昼食会場に直行した。

TNBCは私の徳島訪問に合わせて参加各企業のトップを召集しており、主要企業の交流会を兼ねた昼食会が開催されていた。私が会場に到着した時は既に会長をされている阿波製紙(株)三木社長をはじめ、参加企業の社長、社員、関係者約20数名の方々が集まっておられた。会食が始まると三木会長、勝瀬常務理事の挨拶に続いて私が主賓として紹介され挨拶を求められた。かかる式次第となっていることを全く知らされていなかったので十分な心の準備もなく、アドリブでSNEEDの設立の経緯と活動状況及びスタッフの紹介、かかわっているベンチャー企業の内容などを概説し、ベンチャー企業支援に関する私見を述べ挨拶に代えた。その後、参加企業の幹部の方々と名刺交換、歓談が始まった(参加企業の名刺交換した方々は別紙に記載)。

TNBCは在京のニュービジネス協議会や村口さんが主催されているテクノロジーベンチャーパートナーズなどを参考にして、1990年代半ばに徳島の主要企業のトップが集まって設立された。現在は阿波銀行が主管企業として運営を支援しており勝瀬常務理事が阿波銀行から移られ、佐藤次長も出向されている。1990年代は四国地区の経済活性化、地域事業環境の改善を目指し、明石海峡大橋及び鳴門海峡大橋の建設が始まった。これらの橋が完成すれば徳島県にもきつといい経済効果があるとの地元の期待で、TNBC設立当初は参加各企業いずれも新規事業起こしに熱が入っていたとの事であった。しかし、橋が完成し蓋を開けてみると確かに京阪神地区とは陸続きとなり便利になったが、徳島に目立

ったニュービジネスが定着せず新しい橋が徳島の産業振興に結びついてこなかった。一方、若者たちは2時間程度で京阪神地区にいけるようになり（バスで3千円も出せば3時間で神戸の繁華街に行ける）、逆に徳島の繁華街が客を奪われる結果となり寂れてきている。この結果設立当初熱気を持って参画してきた企業のいくつかは退会してきており、最近になってTNBCの活性化を図るため学生会員を入れるなどいくつかの新しい試みをやっている。また東京を初めとするベンチャー支援団体や協議会との交流を図り活動の幅を広げることを模索してきている。徳島と言えば阿波踊りしかないと言われ、皆さん異口同音に口にされ、これを利用してパートナー作りのきっかけにしようとの試みが今回の招待であった。SNEEDがこの試みの第一候補となっていた訳である。

阿波踊り

今回の徳島阿波踊りに参加することは踊りを観賞するものと思ってきたが昼食会の終わり頃になって、TNBCの市岡製菓の市岡社長が阿波踊りの指導をはじめられ、ここで我々も（私と家内）踊らされる予定になっていることをはじめ知った。その後TNBCの幹部の方々と徳島ワシントンホテルに移動し、TNBCが用意した阿波踊り用グッズ（半パンツ、さらし、TNBCロゴの入った浴衣、足袋、及び日本タオル）に着替え徳島商工会議所の壮行会に加わり踊りの更なる指導を受けた。TNBCからは三木会長、勝瀬常務理事、杉野課長はじめ各企業の社長さん数名が参加、中には在徳島なのに今回が踊るのは初めてと云われる社長さんもいて気持ちの上では少し楽になった。

阿波踊りの基本は足のステップに併せて同じ側の手を前に出し、左右交互に2拍子のステップを踏む踊りである。テンポが速くバランスの取れた踊りをするためには男は相当姿勢を低くする必要があり、結構腰に負担がかかる踊りである。女性は下駄を前に倒して前体重でステップし、これに合わせた手の振りが主体の踊りで網傘をかぶると誰でも美しく見える。

TNBCのグループは商工会議所の連に入って阿波踊りに参加するとの事で小会議所の人達と壮行会を兼ねた食事会に入り、更に踊りの練習を経て勝瀬常務理事の提灯に連れられて全員阿波踊りの元町演舞場、新町演舞場、また合間に中通りおどり広場で都合3時間半阿波踊りを踊った。予測に反して観賞に出かけたはずが逆に踊る立場となったが結構楽しい経験であった。全身汗だくでホテルに戻ったのは10時を過ぎており疲れも忘れて踊ったことになる。

大塚美術館

翌日（8月15日）予てから行って見たいと思っていた大塚製菓が記念行事と

して建設した大塚美術館を見学した。地下4階、地上2階都合6階建ての壮大な建物の中に、世界各地の名画数百点のセラミック複製版絵画が展示されている。いずれの作品も複製を一切感じさせない“素晴らしい”の一言に尽きる美術館である。いずれの絵画も原版に忠実に設置されており、陶器に焼き付けられているため経年劣化もなく触れることも出来て写真も自由である。私は展示されている相当数の絵画の原画を見たことがあるが、実物を見るのと同じ感動を覚えた。

まとめ

予備知識を一切持たず、興味につられて徳島阿波踊りに参加したが非常に印象深い経験であった。かかる企画を頂いたTNBCの幹部の方々に感謝の気持ちで一杯である。今回のTNBCに参加企業の社長さん達との交流を通じて、今後我々SNEEDとしてTNBCのニュービジネス発掘に協力してゆきたいと思っている。特に徳島のような地方都市でベンチャー新事業を立ち上げるに、単独では相当な困難があり、10倍以上のビジネスチャンスのある首都圏在住の我々のような支援団体とのワークが不可欠と思う。一番の着眼点は徳島でないと得られない産品や郷土に立脚した事業を首都圏でマーケティングを支援する、また逆に首都圏のベンチャー事業を徳島の立地で協力させようような分野を探してゆくことが当面の課題と思う。定期的なTNBCとの交流を深め、新しい枠組みでSNEEDの事業にも貢献できればと思っている。

以上

